

中学生の部 最優秀賞

「全世界へ幸せを～国際交流で私たちができること～」

甲陵中学校 1年 横森 穂夏

みなさんは、幸せに暮らせていますか。多くの人が毎日食事をとり、勉強をし、健康に過ごしていることが日常だと思います。しかし、世界に目を向けてみてください。一分で十七人もの人が飢餓で亡くなるという事態が起きています。普段何気なく物を食べている私たちにはどうも考えられません。私たちの日常は世界全体で見ると非日常で、とても幸せなことなのです。けれども、知るだけでは意味がないと思います。先進国の一員として、発展途上国を救う必要があります。

この作文を書くうえで私は、世界の人々はどのような状況なのか気になり、詳しく調べてみることにしました。すると、自分のこれまでのイメージとはかけ離れたものがあり、驚きとともに少し悲しくなりました。まず驚いたのは、世界の人々の死亡原因で一番多いのは「飢餓」だということです。私にはこれまで、命を落としそうなほどお腹が空いた経験がありません。むしろ、家にいるときは冷蔵庫を開ければいつでも食べ物があります。しかし、そのような人は世界で見ればごくわずかなのです。さらに、問題はそれだけではありません。世界に七千九百五十万人いる難民は、日常的に暴力を受け、子供にも関わらず労働をし、安全な水さえ得られません。

同じ人間なのに、こんなに生活に差があって良いのでしょうか。私は絶対にあってはならないと思います。世界中の全員が同じような幸せを味わって初めて地球が笑顔であふれるのです。その方法の一つに、「寄付」があります。これは、他国への詳しい知識がなくても、簡単に行うことができます。例えば、一万五千元あれば、きれいな水を届ける井戸の手押しポンプ用器材一基分に変わります。一万五千人の人がいたとしたら、その一人一人がたった一円を寄付するだけです。水を必死に探す。やっと見つけたと思ったら、汚く不衛生な泥水。それを命がけて飲む。そんな生活をしている彼らにとって、無限にきれいな水が飲める生活はまるで夢のようだと思います。また、募金だけではありません。ペットボトルキャップ八百個の寄付で様々な病気から命を守るワクチンを打つことができます。「八百個」と聞いて、かなり地道な作業だな、と思うかもしれませんが、私たちにとってはゴミとなる、あの小さいキャップが命を救うのです。そんなキャップを日本中の人を集めて寄付したとしたら、数えきれないほどの命を助けることができるでしょう。そう考えるだけで、私もワクワクしてきます。

「国際協力」と聞くと、どうしても大げさにとらえてしまいがちですが、このような身近なことでも世界平和に貢献することができます。さらに、寄付からまた一步踏み出したところに「国際協

力団体」があります。実際に現地に行って食糧援助や支援を行うのです。自分の手で命を救うのですから、きっと日本からの寄付以上の充実感、達成感があると思います。

ここまで色々述べてきましたが、国際協力のカギはやはり他の国との交流だと思います。私自身まずは、普通に生きることもできなく、苦しい生活をしている難民の方々に実際に会い、話を聞きたいです。死ととなり合わせの生活をしている人が世界にたくさんいるということを知っているとはいえ、知られていない苦労はまだ必ずあります。様々な人の気持ちを知ることこそ、国際協力につながると思います。また、国際的なイベントもあれば、他の国の人々ともっと深い関係も築け、必然的に国際交流ができると思います。そして、その交流を経て、先進国である日本がたくさんの難民を受け入れることができれば、少しずつ地球に笑顔は増えていきます。

日本自ら国外へ出ていくことも大切です。現在、JICAなどが現地で支援を続けていますが、難民はまだたくさんの支援を必要としています。そこで、もっと多くの人々が積極的に国際的なボランティアをすると良いと思います。世界の国々を日本の素晴らしい文化で元気にし、やがて日本が「ボランティア大国」になったらいいなと考えています。

世界には、命がけの生活を強いられている難民がたくさんいます。しかし、行動に移さなければこの現状は何も変わりません。だからこそ、細かなことでも難民の支援に関わることを始めてみるのが重要です。私は今後、積極的に募金をしようと思います。その努力が積み重なれば、世界は笑顔でいっぱいになるはずです。住む場所も話す言葉も全く違うとはいえ、全員が仲間です。国際協力に興味がない人も、硬貨1枚、キャップ1個から始めてみてはどうでしょうか。全世界の七十二億人全てが元気に、そして笑顔に暮らせること、それが「本当の幸せ」なのです。